

より効果的な資料館運営を目指して富山県立イタイイタイ病資料館運営会議を開催しました

11月24日（火）、資料館の運営を円滑かつ効果的に進められるよう、学識経験者や関係団体の代表、学校教育関係者などで構成する資料館運営会議を開催しました。

資料館顧問の谷 修一 氏（国際医療福祉大学名誉学長）が座長となり、会議が進められ、議題に沿って意見交換が行われました。

会議では、今年4月に、資料館の来館者が10万人を達成したこと、10月に天皇・皇后両陛下が資料館をご視察されたことなどの報告や、今年度の各事業の実施状況や資料館の入館者状況などについて説明を行いました。入館者数では、小中学校の利用者数は前年度より増えているものの一般の来館者が減少傾向にあることなどを報告しました。



資料館運営会議の様子

天皇、皇后両陛下のご視察について高木勲寛イタイイタイ病対策協議会会長にお話を伺いました

去る10月24日（土）に、天皇・皇后両陛下がイタイイタイ病資料館をご視察されて一カ月余りが経過しました。今回のご来館を通して、関係者の周りではどのような変化があったのでしょうか。高木イタイイタイ病対策協議会会長にお話を伺いました。

私が仕事などで訪れる先々では、天皇・皇后両陛下のご来館についてよく声を掛けていただいたことから、県民の関心の高さを感じました。

私は、両陛下がご来県の際、まず最初にイタイイタイ病資料館にご来館され、大変関心を持ってご視察いただいたことが何よりも嬉しく思いました。その際、石井知事が自ら両陛下に私の事を紹介していただいたことについても大変有難く、私た

ち被害者団体にご配慮いただいたことを強く感じました。

両陛下が資料館をご出発の際には、私や語り部にお声をかけていただいたことも大変光栄な事であり、今後の活動の励みになりました。

また、語り部の中には、ご来館を通じて大きな心情的な変化があった方もいました。かつてイタイイタイ病は、国にも認められた公害病であるにも関わらず、一部の方々から『幻の公害病』と言われ公害病であることを否定される動きがありました。今回両陛下に関心を持ってご視察いただいたことで、ようやくイタイイタイ病が“幻”ではないことが明らかになった、すべての国民に認められたと話される方もいました。

今回のご視察が、関係者の心情的な変化をもたらし、今後の活動の原動力になったこと、そしてイタイイタイ病がマスコミに大きく取り上げられることで公害の教訓やその克服に向けた取り組みを広く発信できたことが何よりも良かったのではないかと思います。

